

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|-----------|------------|
| 事業所番号 | 2372400412 | | |
| 法人名 | 医療法人 宏友会 | | |
| 事業所名 | グループホームゆうゆう村 | | |
| 所在地 | 愛知県半田市横川町2-101-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年11月28日 | 評価結果申付受理日 | 平成24年2月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 福祉総合研究所株式会社 | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1階 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年12月13日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

9人の1ユニットで、利用者様との“距離感”、“関わり方”が密接であり、より個々のペース合わせた生活を送ることができます。又、住宅街に囲まれている為生活感を感じることができ、同法人の老人保健施設・デイケア・居宅介護支援事業・ヘルパーステーションがある為、連携がとりやすく、お客様の相談にスムーズに対応しやすいです。
毎月1回、行事を行っており事業所内にボランティアの方を招き「大正琴」「三味線・太鼓」「ハーモニカの演奏」を見て楽しんで頂いたり外出したりしている。又、1回/1年「スペシャルデー」を設けており利用者様の希望を可能な限り叶えるイベントを行っている。介護計画に反映させるように、一人に対して関わった内容を日々個人カルテに記載し、日々のケアに活かしている。その実施内容に基づき、次回の介護計画にも反映するように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2階建てで、1階が共有スペース、2階は各居室となっている。理念を念頭に、職員間で日々話し合い、利用者本位の支援に努めている。1階には手作りカレンダーや行事の写真が掲示してあり毎回利用者・家族が楽しみにしている。写真を見て利用者や家族、職員との会話にも役立っている。日中の活動では、室内でのんびり過ごすことが好きな人が多く、新聞や本の朗読やラジオ体操・嚙下体操を行い利用者楽しんでもらっている。また、レクリエーションに力を入れており、年に1回スペシャルデイを企画し行きたい場所や食べたい物など、なんでもリクエストしてもらい満足してもらえるよう努力している。管理者を中心として職員にまとまりがあり、利用者に対する様子にやさしさとゆとりが感じられ、利用者も落ち着いて穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を目につく所に掲示したりして、周知に努め実践を心掛けている。利用者様のペースでの生活を過ごして頂く為に職員同士、話し合いながら支援に努めている。 | 理念は玄関先に掲示している。管理者を中心に、職員同士が理念について様々な意見を出し合い、話し合いながら、利用者の体調や季節に合わせて、理念に沿うよう支援している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的な散歩などの機会に、近隣の方々に挨拶や会話を心掛けている。 お祭りの際は、子供神輿や祭礼の馬などによって頂いたりしている。ボランティアの方々に行事に参加して頂き、交流を図っている。 | 近くには同法人施設横に花壇や桜並木があり、天気の良い日には散歩へ出かけ、地域の人と挨拶や会話をしている。近所にある喫茶店で交流を深め、手渡しで案内状を配ったりして地域とのつながりが出来るようにしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 推進会議を開催時には、市の職員や包括支援センターの方々などに参加して頂いている。 民生委員の会合に出向き、参加のお願いをしている。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の際、当事業所の状況等を報告し、家族の方より頂いた意見・市の職員や包括支援センターの方々より指摘・意見などを、ミーティングなどで話し合っ、問題点の改善に努めている。 | 運営推進会議では、家族・市職員・包括支援センター職員が毎回参加し、様々な意見交換ができています。最近では、避難訓練を合同で開催しそれぞれの立場からの意見が聞かれ、良い所や悪い所について話し合いが出来ています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議の際、市の介護保険課の職員に参加して頂き、意見等の交換をさせて頂いている。 介護保険課主催の「在宅ケア推進地域連絡協議会」に参加させて頂いている。 | 2ヶ月に1回の半田市介護保険課主催在宅ケア推進地域連絡協議会に参加し、情報交換している。運営推進会議には毎回市職員が参加しているので、その都度、困ったことがあれば相談に乗ってもらっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は行っていない。 言葉による拘束にも、ミーティング等で職員同士、話し合い、注意し合うことで防止に努めている。 | 現在、身体拘束や玄関の施錠はしていない。利用者が外出する時は、職員と一緒に付いて行ったりしている。夜間、ベッドからの転倒の危険がある利用者にはペットボトルが落ちて音が鳴るようにするなど工夫している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 他施設での事件や事故の際には、当事業所で類似した事が行われてないか、報告・確認を行っている。会議等で連絡あった場合は、記事を回覧している。 | / | / |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人研修で「後見人制度を楽しく学ぼう」といった研修が設けられ、講談や社会福祉協議会の方を招いた学ぶ機会に参加している。 利用者様にも成年後見人制度を活用している方がおられるので、随時、制度の説明を受けながら支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 面会時や運営推進会議等で、ご家族から質問等を受け付けている。当事業所内で解決が困難な時は、法人内の連携を利用し、理解して頂けるような説明を心掛けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議・家族会・面会時・日々の生活を通じて、利用者様やご家族様・市職員や包括支援センターの職員の意見や要望を聞くように配慮している。ミーティングや申し送り等で職員が共有出来るように心掛けている。 | 利用者からは日々の生活の中で意見や要望を聞いている。実現が可能な要望は職員間で話し合い、年1回誕生日に好きな所に行けるスペシャルデイの時などに実現できるようにしている。家族からは運営推進会議や面会時などに話しを聞いており、要望などあればミーティングで話し合っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 1ヶ月に1回ミーティングを開催し、日々の業務に対す疑問・提案の話し合いをしている。参加できない職員には、事前に話を聞きとり提案している | 1ヶ月1回のミーティングで意見を聞いている。会議係・レク係など各担当からミーティング時に連絡があり、管理者・職員で話し合っている。管理者とは年2回個別面談があるのでその時にも話し合っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 半期毎に、人員考査及び個人別実行計画書などの資料により、職員の能力・実績などを把握し、また自己にて目標設定することにより、前向きに業務を行えるよう体制をとっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内で実施される定期的な研修への参加を促し、また外部研修には目的意識を持った上で研修に参加する事を認め、職員の能力向上に努めている。地域で行われている研修にも参加している。入職時より各専門分野の責任者よりオリエンテーションを受けることになっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修や勉強会などで、グループワークを通じて他事業所の方と交流する機会やゆうゆうエリア内での委員会活動があり、交流が作られている。宏友会内にある5つのグループホームの管理者のミーティングに参加し、交流の機会が設けられている。市が行う研修会に参加する事により同業者との交流が図れている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所時の情報を共有し、利用者様の表情や行動をよく観察し声掛けさせていただいている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前の面談や契約時に、質問等をお聞きし安心していただけるように努めている。面会時など随時、利用者様の様子などをお知らせしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談の中から、ご家族の要望をお聞きしたり、事前の情報提供などを把握し、ご本人とお話した上で理解するように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人の得意な事、以前好んでいた事を職員が教えていただいたり、できる範囲のお手伝いをお願いし、協力し合う関係作りを心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 行事や家族会等に参加をお願いし、一緒に過ごして頂けるように心掛けている。面会時なども日々の様子や行動をお伝えしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人と気持ちよく話し出来るような環境作りに努めている。馴染みの場所にスタッフと一緒に行くことは難しい。会話の中に馴染みの人や場所の話を取り入れたりしている。 | 家族や友人の面会が多く、馴染みの関係が継続出来ているので利用者も喜んでいる。美容院や病院などは家族の協力で通えている。自宅に利用者宛の手紙や贈り物などが届いた時は、家族が施設に持ってきてくれて本人と家族との会話がはずんでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常、利用者様の座席に配慮したり、利用者様の会話がかみ合わない時は、職員が間に入り関わりが続くように配慮に心掛けている。孤立しやすい方には職員から、細かな声掛けを行うようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要があれば、相談して頂けるように声掛けさせて頂いている。家族の方と会った時には、利用者様の様子などを教えて頂いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人やご家族よりお話しをお聞きし、利用者様の日々の表情や発言を理解し、個々の希望や意向に添うように心掛けている。 | 利用者の意向を日々の支援の中で聞き取り、あるいは汲み取り、昔行ったことのある場所、たとえば喫茶店やパチンコ店へ連れて行くであるとか、食べたいものを用意する、といった支援に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族にもセンター方式に記入をお願いしたり、以前の生活をお聞きして把握に努めている。ご本人との会話の中からも生活歴を把握し、共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活での行動・発言を個人別カルテに記載したり、申し送りする事で把握に努めている。体調等を加味し、長く休んで頂いたり、介助量を変え対応している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族からの情報や要望・DrやNS・PTの専門分野の意見を反映させ、職員からのアイデアを柔軟に取り入れて現状に合う様に介護計画に反映させている。 | 3ヶ月毎の見直しをしている。利用者の個人カルテや家族からの要望を聞き、リハビリ訓練の見直しなども細かくしており利用者の現状に即した介護計画となっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアプランに沿った個別カルテの記入に努め、できる事・困難な事等を共有し、3か月毎に評価し、実践につなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人やご家族より要望や希望があった場合、管理者を通じて、関係機関と連携を図るように心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行事等の折、地域のボランティアに来て頂き利用者様に楽しんで頂いている。近隣を散歩し、四季折々の花など見て楽しんで頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 殆どの利用者様が訪問診療にて対応させて頂いている。ご家族の要望がある方はかかりつけ医にご家族等と受診されている。 | 訪問診療を基本においているが、本人、家族の意向をもとにかかりつけ医を受診したり、スタッフの判断で受診を勧めたり、同行することもあり、家族との連携、かかりつけ医との連携もとれている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の利用者様の状態の変化に気づいたら、すぐにNSへ報告・相談し、対応の指示を仰いでいる。病院受診が必要な場合は、家族へ連絡しお願いしている。情報提供書を作成し、家族の方が受診に困らないように対応させて頂いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時見舞いに行き、医療機関での状況を把握し、訪問診療Dr・NSへ報告し、退院後の生活もスムーズに対応できるように心掛けている。ご家族への連絡も密にとって不安のないように支援させていただいている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 運営推進会議で「看取りについて」を題目にあげ、看取りの説明や事前意向確認書を記入して頂いている。 | 入居時に利用者や家族に重度化に向けたホームでのあり方について説明し、書類で確認、了承を得ているが、運営推進会議の場でもさらに詳細に説明を加えている。なるべく、本人や家族の意向に沿って、穏やかな終末期をすごせるよう、スタッフが勉強や話し合いを行い、支援に努めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時のマニュアルは作成されているが、個々の閲覧のみで実践的な訓練には至っていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署員の立会いの下、夜間想定避難訓練と家族の方参加での昼間想定避難訓練を行えた。月1回から2回、夜勤スタッフメインに避難訓練の流れを実際に行うようにしている。 | 火災がおきた場合に、二階居住スペースからの避難が難しいとの消防署の指摘を受け、改善している。本年度スプリンクラーを設置完了している。さらに運営推進会議の場でも家族を含め避難訓練を実施するなど、スタッフの防災意識は高い。 | 二階からの避難経路が階段に限られるため、常に危機管理に努めることを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇の研修に参加したり、スタッフでお互いに接遇の仕方を指摘し合ったりし、利用者様の尊厳やプライバシーに配慮するように心掛けている。 | スタッフ間での人格の尊重に対する意識は高く、ミーティング時に限らず、気がついた時点での対処改善もなされている。トイレや入浴といった際にもほかの利用者と重なったり、プライバシーが損なわれることのないように最善の注意がなされている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 希望を意思表示できる方には、直接お聞きしている。自己決定の難し方にも疑問形の問いかけを心掛けたり、押し付ける声掛けをしないように注意し、支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご本人の体調・ペースに合わせて希望に添えるように支援を心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自己にて可能な方は、必要な物品を用意させて頂いたり、声掛けさせていただいている。ご自分でできない方は、職員にて体調や季節に合うように支援させて頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 具材を決めて頂いたり、野菜を切る事をお願いしたり、味見をお願いしたりしている。一緒にお茶碗洗いやお茶碗拭きお盆拭きをお願いしている。お好みに応じて調味料や漬物・おやつをお出ししている。 | 昼食、夕食の主菜は本部から届けられるものの、主食や味噌汁、また朝食はホームでの手作りであり、利用者も献立作りや、調理の手伝いをする事で食事に関心をもち意欲をもって取り組むことができている。また、外食の希望があれば行事の際に提供できるように計画実行されている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1人1人の量・食事形態など気を付けてお出ししている。食器やカトラリーなども利用者様個々に合わせ配慮している。食事・水分摂取チェック表を記入し、日々の把握に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後ご自分でできる方はやって頂けるよう支援している。困難な方は、スタッフにて介助させて頂き、口腔内の確認をさせて頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し、排尿間隔や排便の有無などを考慮し、随時声掛けや介助等対応している。出来るだけ、トイレでの排泄が出来るように努めている。 | 利用者がリハビリパンツやオムツの使用であっても、一人ひとりに排泄時に必ずトイレに腰掛けてもらう援助をすることで排泄自立にむけ取り組んでいる。また、夜間のトイレの声かけや、居室でのポータブルトイレの利用で快適な朝を迎えられるよう取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事にヨーグルトやバナナ・寒天ゼリーをお出ししたり、水分摂取量に気を付け便秘予防に努めている。毎日のラジオ体操への声掛け・散歩などで運動へつなげている。DrやNSに相談し利用者様にあった下剤の服用の仕方も相談している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | その日の体調や前日の入浴できなかった方など考慮して入浴のし方について、利用者様の拒否などあれば、話題をかえたり、時間や日にちを変更して対応している。 | 利用者それぞれの体調と希望を考慮し、ゆつたりと入浴を楽しめる支援ができています。入浴は好きだが、気分が乗らない、嫌だ、という時には言葉がけや、話題をかえることで気分をかえるよう工夫に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 安心していただける様な声掛けに努め、個々の睡眠のペースに合わせて休んで頂けるように心掛けている。利用者様の体調や希望などを考慮し、畳の所でお昼寝をしていただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬が変更になった場合、カーデックスに薬剤名・効能・変更の理由を記載し、1週間申し送りを行い把握に努めている。薬剤情報を使用し個人の服薬状況が把握できるようにされている。居宅療養管理指導による薬剤師との連携も図りながら、対応に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生花の好きな方・洗濯物をたたんでくださる方・花に気持ち良くやって頂けるように声掛けしている。苦手な方でも声掛けし、一緒に行う事で参加していただいている。日々の食事・おやつや行事などで1人1人に喜んでいただけるよう支援している。生活歴を理解し、個々の力を活かした役割を考え、支援させていただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 年間行事に外出企画を入れ、利用者様の要望を参考にお聞きし、御家族の協力して頂き支援している。花を見に出掛けたり、野菜を見に畑まで行かれたりされている。 | ホームの居心地がよく、外出を嫌がる利用者が多くなっているが、それでも隣接する同法人の老人保健施設まで散歩に誘ったり、喫茶店へ誘ったりと、戸外に出る支援にも努めている。また、利用者個人ごとの希望をかなえるスペシャルデー企画もあり、スタッフと利用者一対一での外出機会もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お小遣いは預かっており、外出時など個々に必要な時や希望時には、持って頂くようにしている方もいる。日々の生活の中でお金を所持し、使用する機会は殆んどみられない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の希望時に、職員が取り継ぎ電話を掛けたり、御家族からの電話にご本人が出られる事もある。ご家族からののがきなど届く事がある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 夜勤者がリビング・トイレ・洗面・食堂等を掃除し、掃除専門の職員が2階居室や畳等を掃除し清潔に保つよう心掛けている。生け花やテラスのお花や野菜・掲示物等で季節に合った物を見て頂けるようにしている。 | 生け花の作品が玄関に飾られていたり、リビングの壁に利用者のいろいろな場面の写真がコメントつきで飾られていたり、習字の作品が貼られたりたりと、暖かな雰囲気の良い共用空間になっている。窓からは鉢植えされた野菜や花が見え、またリビングの一角にある畳スペースで、昼寝をするなど居心地の良い空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合う利用者様を隣同士にする事に配慮し、椅子やテーブルの配置等により心地よい空間づくりに心掛けている。1人になりたい方は、ソファ等で過ごされたりしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時にご本人が使われていた寝具等を持参して頂いている。ご家族の写真や行事の写真など飾らせて頂いている。 | 居室の壁にスタッフのコメントつきの利用者個人の写りがはられていたり、本人がもちこんだ布団や持ちものが置かれ居心地よい空間作りがなされている。中には仏壇を置いたり、着物を飾ったりしている利用者もあり、個性的である。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室入口には、自己にて出入りできる方の為に目印を付けている。トイレ入り口にはわかりやすく表示している。時計は利用者様に見やすく配置している。 | | |

外部評価軽減要件確認票

| | |
|-------|---------------|
| 事業所番号 | 2372400412 |
| 事業所名 | グループホーム ゆうゆう村 |

【重点項目への取組状況】

| | | |
|-------|--|----|
| 重点項目① | 事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） | 評価 |
| | 市内の日本舞踊や三味線・ハーモニカのボランティアと交流会を定期的を実施している。年に1回の法人合同の「ゆうゆう祭り」を開催し地域の住民にも参加を呼びかけている。住宅地の中心にあり、地域がら住民との交流に課題は多いようだが、近所の喫茶店や散歩の途中で住民に積極的に話しかけ案内状を手渡して施設に訪問してもらえよう努力している。 | ○ |
| 重点項目② | 運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） | 評価 |
| | 2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、参加者には半田市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族が参加している。利用者の活動報告や災害時について、地域との関わり方などについて話し合っている。災害時には、実際に訓練を行い各立場から様々な意見が聞かれ、今後の運営の参考になっている。 | ○ |
| 重点項目③ | 市町村との連携（外部評価項目：4） | 評価 |
| | 運営推進会議に市職員が毎回参加されるので、顔と名前が解る関係となっており、質問や困ったことがあったらその都度相談に乗ってもらっている。また、2ヶ月に1回開催される、半田市介護保険課主催の「在宅ケア推進地域連絡協議会」に参加し情報を収集している。 | ○ |
| 重点項目④ | 運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） | 評価 |
| | 家族会は年に2回開催している。利用者から意見や要望があったときは職員間で話し合い、できるだけ要望に応えられるようにしている。家族には運営推進会議、面会時や介護計画作成時に意見や要望を聞くようにしている。苦情については、苦情受付の書類を作成し速やかに解決できるよう心がけている。 | ○ |
| 重点項目⑤ | その他軽減措置要件 | 評価 |
| | ○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。 | ○ |
| | ○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。 | ○ |
| | ○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。 | ○ |
| 総合評価 | | ○ |

【過去の軽減要件確認状況】

| | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|
| 実施年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
| 総合評価 | ○ | ○ | ○ | | | |

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

| 外部評価項目 | 確認事項 |
|-----------------------|---|
| | (例示) |
| 2. 事業所と地域とのつきあい | ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。 |
| 3. 運営推進会議を活かした取組み | (例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。 |
| 4. 市町村との連携 | (例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。 |
| 6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映 | (例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。 |

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。